11月 November

神金公民館だより

第１６４号
２０２３年
１１月１日

神金文化祭

１０月２９日（日）～１１月５日（日）

１２：００～１７：００

（３日は９：００～１７：００）

会場：神金公民館１階ホール

□展示期間中は，自由に参観していただきますが会場入り口で参観者名簿に氏名の記入をお願いします。

スマホ教室　１２月８日（金）19:00～21:00

中央公民館と連携して「スマホ教室・基礎講座」を開催します。スマートフォンを持っていない方でも大丈夫です。申込みは，館長までお願いします

きれいになりました

クリーニング業者により，公民館の廊下，階段，ホールなどの床の汚れ落としとワックス塗布を行いました。生涯学習課の予算で業者に依頼していただきました。ありがとうございました。

神金トピックス＆ニュース

１０月８日，スポーツ協会神金支部主催の「第２０回神金ふれあいまつり」が開催されました。地区内の方々が多数参加し，ジャンケン大会をはじめとした様々な競技を楽しみました。各競技の記録上位者にはワイン豚が贈呈されました。

９月３０日，日川高校の競歩大会が実施されました。公民館トイレを利用し，廣川工業所駐車場を給水所として開設し，生徒の保護者が対応しました。

優　　勝

１０月１４日，県男女別ゲートボール選手権大会が開催され，甲州神金チームが見事に優勝しました。

神金の歴史

地元の歴史研究家でもある故飯島卓郎氏が，神金小学校PTA会報「ふもと」に執筆し寄稿した「神金の歴史」をシリーズで紹介します。

青梅街道 三

明治十一年に新青梅街道の完成によって柳沢峠越えに変わったので、大菩薩の山道にあった百体の観音様も、雲峰寺の境内に運ばれたのは本体だけで台座はなく、自然石や近くにあった石を利用して今も鎮座している。

裂石山雲峰寺は天平十七年（七四五）行基菩薩の開創と伝えられている。武田家の祈願寺にて信虎公によって再建された。ご本尊は十一面観世音である。昔は真言宗であったが鎌倉時代以後臨済宗に改宗された。武田家が天目の田野に於いて滅亡の折、武田家の再興を図った家臣達が御旗の外数多くの重宝を、山や谷を越えて当山に隠した。それらの物の一部が現在大切に保管されている。

この寺の深淵幽遂の境内には山霊が棲むと古来から言われ、清澄な渓流と荘厳な建物等々、自ずから人心を洗心浄化する作用が生じるのである。建造物は本堂、庫裡、書院、仁王門とも何れも国の重要文化財として指定を受け、文化財としての価値は高く国の宝であり、地域の宝でもあり誇りでもある。その昔、真言宗の修験道場であった折りの跡が今に残されている。寺の上に禊ぎ沢という川があるがこの近くの人はみそぎの沢といっている。この沢に堂という処があるがここで若い修行僧が冷水を浴びて心身を清め禊ぎの行をしたのである。

雲峰寺のお祭りでお八朔（オハッサク）があった。八朔とは旧暦の八月一日のことで、稲の豊作を神仏にお祈りする日である。徳川家康公が天正十八年（一五九〇）江戸城に入城した日で、徳川家に忠誠を誓わせ武運長久願い仏様にお経をとなえたのである。雲峰寺では家康公から御朱印地として広い土地を貰ったお礼も兼ねたのであろう。なお馬が安全息災であるよう御本尊のご開帳をしてお祈りをもした。又武田家累代の遺宝の虫干しを兼ねて本堂、庫裡に於いて一般に公開した。以上のように、いくつかの目的をもったお祭りが盛大に催された。とりわけ馬の参拝で賑わい境内は人と馬で埋まった。

＊次ページに続く

神金の歴史

交通の便の悪い昔は、全ての重い荷物は馬の背に頼らなければならなかった。従って馬によって一家の生計を立てていた家が多かった。馬は一家の働き手であり柱でもあった。馬に対しては信仰的な心で接し大切に飼育した。馬が死亡すると馬頭観世音として祀り、お仏様として扱い後生を弔ったものである。

お八朔には馬はきれいに洗い清められ、首には注連を飾り大小の鈴をつけ、紅白の布でなった手綱を持ち、全身満艦飾りの馬が無事を祈って参詣する数は八百頭とも千頭ともいわれた。午前中でだいたい終わるが、村の人達は道端に蓆を敷いて見物したものである。沿道には屋台が並び賑やかな祭りであった。しかし、終戦後は自動車の普及により馬を飼う人は少なくなり参詣の馬もなくなった。今は当時の祭りの盛大さを想像することは困難である。

昔は、千野橋を登る道も赤尾橋を渡る萩原筋の道も共に青梅街道といったようである。これは根子橋を渡り上原入口のバス停から右に折れ、神部神社前を過ぎ藤原木の道祖神場から神戸の道祖神場へと続き、二本木のバス終点より左に折れて番屋の関所にて小田原筋と合流したのである。途中、岩波組に「ご版場」という所があるが、そこはお役所からの書類を掲示した所で、高札場と録しているところもある。

神部神社の創建は古く、延喜式内社と伝えられている。本殿には県指定文化財である随神門と棟札二枚、市指定文化財である金銅十一面観世音菩薩座像等がある。特に随神門は四百四十年前に造られた立派な建物であり、復元されることを望んで止まない。境内は広大で荘厳な社である。鍛冶屋組に金山神社という社が仲組橋のすぐ下にあったが、昭和三十四年八月の台風七号の災害で流失し、その跡は河川になっている。黒川金山は坑道に水が溢れ採金不能になって閉山となった。鉱山で働いていた人の多くは麓の村落に下って定住したと古書にあるが、鍛冶職の人達がこの地に定住し鎮守として祀ったものであるが創建年月日は不明である。黒川金山は、この地域にある古文書等から慶安元年（一六四八）頃が閉山の時と判断される。